

# OXIDE

株式会社オキサイド

2026年2月期

## 決算補足説明資料

2026年4月14日

東証グロース:6521

豊かな未来を 光の技術で実現する

Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

「2026年2月期 決算補足説明資料」に基づいて、当社の業績および今後の見通しについてご説明いたします。

# Agenda

**OXIDE**

01. 2026年2月期連結業績
02. 事業別業績 [半導体・ヘルスケア・新領域]
03. 財務情報
04. 2027年2月期通期業績予想および中期経営目標

こちらが本日のアジェンダとなっております。

売上高

**100億40**百万円予想比<sub>※</sub> +13億27百万円  
前期比 +16億45百万円

営業利益

**5億42**百万円予想比<sub>※</sub> +1億33百万円  
前期比 +4億16百万円

EBITDAマージン

**14.2%**予想比<sub>※</sub> ▲0.5%  
前期比 +0.6%

主なトピックス

Raicol社株式譲渡完了

各事業区分で  
過去最高売上高達成データセンター向け  
事業拡大

※ 修正前(2025年4月14日開示)時点の当初通期予想との比較値となっております。  
修正予想(2026年1月28日開示)につきましては売上高9,900百万円、営業利益460百万円となります。

Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

3

まず、2026年2月期の通期決算ハイライトです。

当期の売上高は100億4,000万円と、当社として初めて100億円を突破しました。前期比では16億4,500万円の増収と大きく成長しました。

営業利益は5億4,200万円と、前期比で4億1,600万円の増益となりました。

EBITDAマージンも14.2%と改善し、収益性の向上が確認できる結果となっています。

## Raicol社株式譲渡について

■ 2026年2月、地政学リスク軽減と財務改善を目的にRaicol社の全株式を譲渡し非連結化しました。

■ 一部事業協業は継続し、収益機会は確保します。

株式譲渡に至るポイント	
地政学リスク軽減	<b>先行き不透明な中東情勢への対応</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>2023年10月にイスラエルで紛争が発生</li> <li>一部地域におけるイスラエル製品不買運動もあり売上の鈍化</li> <li>紛争の長期化に伴うイスラエル国内でのインフレ進行や材料費の高騰が影響し、収益性が悪化</li> </ul>
事業ポートフォリオの組み換え	<b>事業ポートフォリオを機動的に組み替え、経営資源を成長領域へ果断に再配分</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>成長が著しい量子・データセンター・パワー半導体・微細加工等の分野に注力</li> </ul>
財務改善	<b>非連結化がもたらすポジティブな影響</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>負債の低減と自己資本比率の改善 (25年2月期末→26年2月期末:有利子負債約103億円→約75億円、自己資本比率29.7%→31.8%)</li> <li>収益悪化要因であったRaicol社を切り離すことで、営業利益率の向上</li> </ul>
当社の成長に必要な協業関係継続	<b>次世代半導体向け光学単結晶の独占供給合意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>半導体事業の競争力維持・向上に寄与</li> </ul>
	<b>データセンター向け結晶育成炉の継続供給合意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>当社新領域事業の成長に寄与</li> </ul>

次に、Raicol社株式譲渡についてご説明します。

当社は2026年2月、地政学リスクの軽減と財務体質の改善を目的に、Raicol社の全株式を譲渡して、非連結化しました。

資料にもある通り、イスラエル情勢の不安定化により、一部地域でのイスラエル製品不買運動、紛争長期化によるインフレ、材料費高騰などが収益性を圧迫していました。

このため、事業ポートフォリオを機動的に組み替え、成長領域へ経営資源を再配分する判断を行いました。

一方で、Raicol社との協業は維持します。

次世代半導体向け光学単結晶における独占供給や、データセンター向け結晶育成炉の継続供給について合意しています。

## 01.連結業績

## 2026年2月期 通期実績

OXIDE

■売上高 100億4,000万円(予想対比13億2,700万円増収、前期比16億4,500万円増収)

■営業利益 5億4,200万円(予想対比1億3,300万円増益、前期比4億1,600万円増益)

(単位:百万円、%)

項目	26年2月期 <sup>※1</sup>								
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	当初通期 予想	予想比 <sup>※4</sup>	25年2月期 通期	前期比
売上高	1,787	2,363	2,206	3,682	10,040	8,713	+ 1,327	8,394	+ 1,645
営業損益	▲ 72	▲ 117	▲ 68	801	542	409	+ 133	126	+ 416
営業利益率	▲4.0%	▲5.0%	▲3.1%	21.8%	5.4%	4.7%	+ 0.7%	1.5%	+ 3.9%
研究開発費	465	241	251	244	1,203	1,330	▲ 127	1,296	▲ 93
EBITDA <sup>※2</sup>	154	108	165	998	1,427	1,278	+ 148	1,145	+ 281
EBITDAマージン <sup>※3</sup>	8.6%	4.6%	7.5%	27.1%	14.2%	14.7%	▲ 0.5%	13.6%	+ 0.6%

※1 「2025年3月～2026年2月末」の会計年度を指します。

※2 営業利益に償却費(減価償却費・のれん償却等を含む)を加えた数値

※3 EBITDA=売上高

※4 修正前(2025年4月14日開示)時点の当初通期予想との比較値となっております。修正予想(2026年1月28日開示)につきましては売上高9,900百万円、営業利益460百万円となります。

Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

5

2026年2月期の通期実績についてご説明いたします。

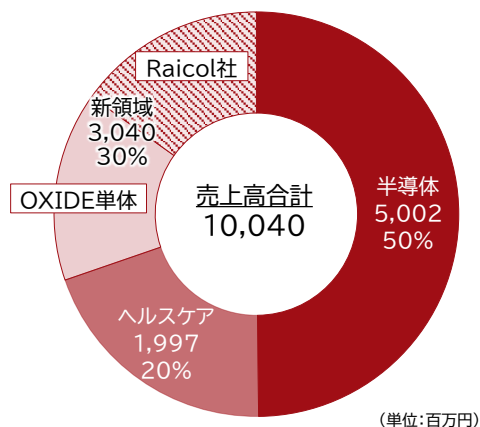
売上高は100億4,000万円となり、予想比13億2,700万円の増収、前期比では16億4,500万円の増収となりました。

営業利益は5億4,200万円と、予想対比1億3,300万円の増益、前期比では4億1,600万円の増益となりました。

売上、利益ともに、当初予想を大きく上回る結果となりました。

## 事業別売上高構成 2026年2月期

■ 事業別の売上高構成比は、半導体事業50%、ヘルスケア事業20%、新領域事業30%となりました。



### 半導体事業

半導体ウエハ欠陥検査装置向け単結晶・レーザの製造・販売



### ヘルスケア事業

がん診断用PET検査装置向け単結晶の製造・販売



### 新領域事業

量子・データセンター・パワー半導体など様々な分野へ展開

続いて、2026年2月期の事業別売上高です。

半導体事業が50%、ヘルスケア事業が20%、新領域事業が30%となりました。

なお、新領域事業の売上高の約半分は、株式譲渡前のRaicol社によるものです。

## 半導体 | 売上高

OXIDE

■ 半導体事業の通期売上高は、過去最高の50億200万円となりました。

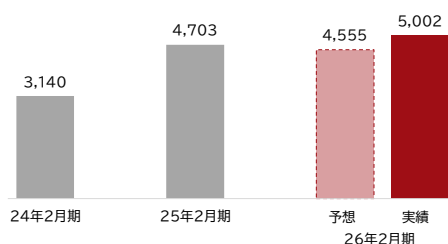
■ 深紫外レーザー・単結晶の既存製品の需要拡大に加え、昨年12月に発表した新製品の立ち上がり、ならびに次世代レーザーの開発受託が第4四半期に寄与しました。

(単位:百万円)

項目	26年2月期					当初通期 予想	予想比	25年2月期 通期	前期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期				
売上高	834	1,083	1,139	1,943	5,002	4,555	+ 446	4,703	+ 298

売上高推移

(単位:百万円)



次に事業別の業績についてご説明します。

まずは半導体事業です。

半導体事業の通期売上高は、50億200万円と、過去最高を更新しました。

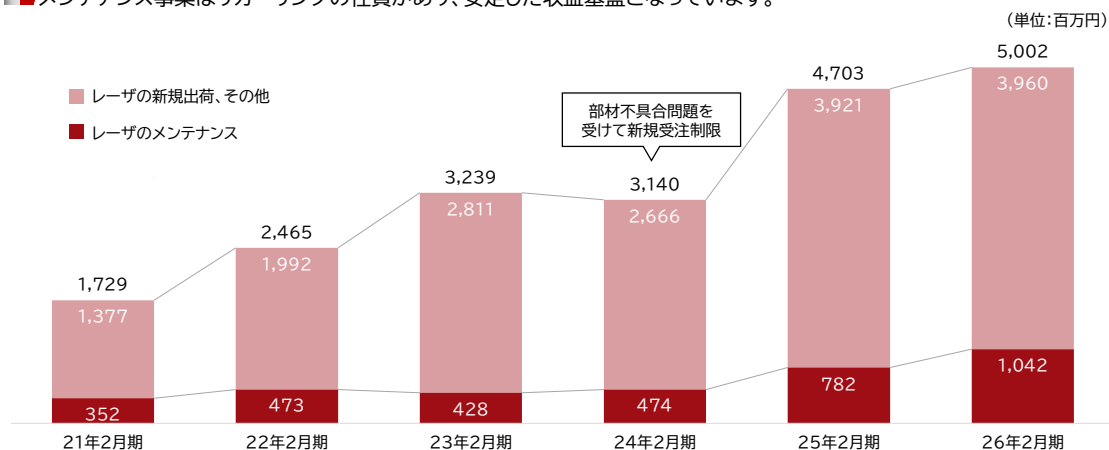
成長の要因は、深紫外レーザーおよび単結晶の既存製品の需要拡大に加え、昨年12月に発表した新製品の立ち上がり、ならびに次世代レーザーの開発受託が第4四半期に寄与しました。

特に第4半期は、レーザー製品の出荷が大きく伸び、事業全体の成長を牽引しました。

## 半導体 | 売上高推移

OXIDE

- レーザ製品の出荷拡大に加えて、出荷済みレーザ製品に対するメンテナンス需要が増加しています。
- メンテナンス売上高は初めて10億円を上回りました。
- メンテナンス事業はリカーリングの性質があり、安定した収益基盤となっています。



Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

8

半導体の事業の売上高推移です。

レーザ製品の出荷拡大に加えて、出荷済みレーザ製品に対するメンテナンス需要が増加しています。

資料にもあるとおり、メンテナンス売上高は初めて10億円を上回りました。

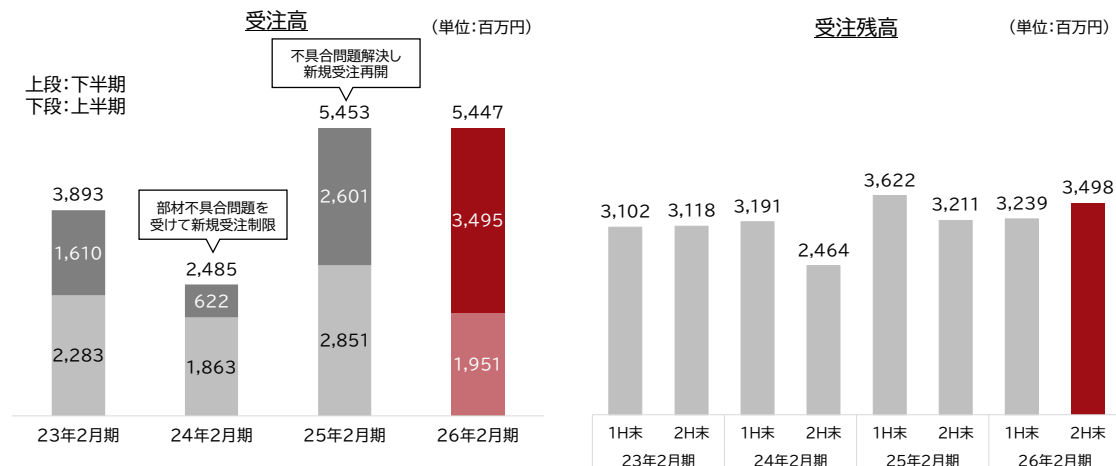
メンテナンス事業はリカーリングの性質があり、当社の安定した収益基盤として、今後も重要な位置付けとなります。

## 半導体 | 受注高・受注残高

OXIDE

■ 2026年2月期の受注高は、54億4,700万円となりました。

■ 2026年2月期末時点の受注残高は、期末としては過去最高の34億9,800万円となりました。



Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

9

半導体事業の受注高および受注残高です。

2026年2月期の受注高は54億4,700万円となりました。

2026年2月期末時点の受注残高は、34億9,800万円と、期末としては過去最高を更新しました。

02.事業別業績

## ヘルスケア | 売上高

OXIDE

■ヘルスケア事業の通期売上高は、過去最高の19億9,700万円となりました。

■顧客の実需に基づく安定した出荷フェーズに移行しております。

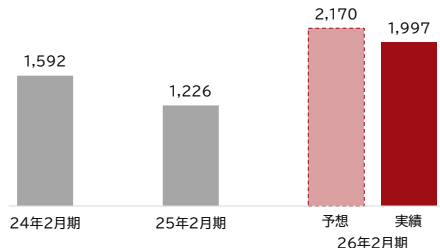
項目	26年2月期					当初通期 予想	予想比	25年2月期 通期	前期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期				
売上高	346	813	421	415	1,997	2,170	▲ 172	1,226	+ 771

25年2月期からの一部出荷期ずれ

(単位:百万円)

売上高推移

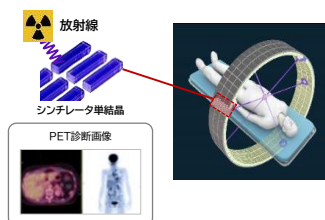
(単位:百万円)



PET装置に用いる当社製品



PET検査装置のしくみ



次に、ヘルスケア事業です。

ヘルスケア事業の通期売上高は、19億9,700万円と、こちらも過去最高となりました。

第2四半期には前期からの一部出荷期ずれがありました。第3四半期以降は顧客の実需に基づく安定した出荷フェーズに移行しております。PET装置向けシンチレータ単結晶の需要が堅調に推移しています。

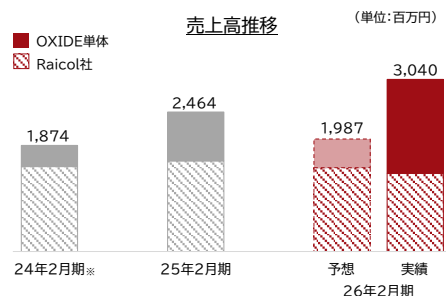
## 新領域 | 売上高

OXIDE

- 新領域事業は、オキサイド単体の事業が順調に成長し、通期売上高で過去最高の30億4,000万円となりました。
- 世界的なデータセンター需要の拡大を背景として、ファラデー回転子の出荷が増加し、Raicol社の売上高減少影響を上回り、当初予想対比増収となりました。

(単位:百万円)

項目	26年2月期					当初通期 予想	予想比	25年2月期 通期	前期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期				
売上高	606	466	644	1,323	3,040	1,987	+1,053	2,464	+575



Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved. ※ 24年2月期のRaicol社実績は、2Qより子会社化したため、2Q~4Qの3四半期分のみを計上しております。

11

次に、新領域事業です。

新領域事業は、オキサイド単体の事業が順調に成長し、通期売上高は30億4,000万円と、こちらも過去最高となりました。特に、世界的なデータセンター需要の拡大を背景として、ファラデー回転子の出荷が増加し、Raicol社の売上高減少影響を上回り、当初予想を大きく上回る結果となりました。

## 直近のプレスリリース

OXIDE

2025年

半導体事業

微細加工

新製品

12/16 ● 半導体検査向けDUVレーザ「高出力266nmレーザ/新波長193nmレーザ」の受注開始

12/16 ● 半導体後工程向け高パルスエネルギー深紫外レーザを新たに製品化

「QCW Kalamaシリーズ」  
高パルスエネルギーモデル

新領域事業

パワー半導体

国内初

12/16 ● 溶液成長法による6インチp型SiCウエハを国内初展示

6インチp型ウエハ(左)  
6インチn型ウエハ(右)

2026年

半導体事業

微細加工

業務提携

2/16 ● 半導体後工程向けレーザ微細加工装置事業の取り組みを本格化  
—台湾Bolite社と業務提携の基本合意書を締結し、次の成長市場を共創—

OXIDE × BOLITE

新領域事業

量子

新製品

業務提携

3/9 ● 量子コンピュータ向け紫外レーザ光源の販売を開始  
—半導体で培った技術を量子分野へ本格展開—3/16 ● 量子コンピュータ用高出力レーザの開発・製造に向け、  
Vexlum社と戦略的パートナーシップ契約を締結量子コンピュータ向けCWレーザ  
Frequad-K 波長302nm

OXIDE × VEXLUM

直近では、半導体および新領域を中心に、複数の技術開発や事業提携についてプレスリリースを発信しました。

半導体向け深紫外レーザの新製品開発および受注開始や、パワー半導体向けp型SiCウエハの試作成功など、技術開発から事業化への進展が進んでいます。

また、半導体後工程向けレーザ微細加工分野では、新製品開発に加えて台湾Bolite社との業務提携を行い、事業展開に向けた基盤づくりを進めました。

本年3月には、量子コンピュータ向け302nmレーザの販売開始や、フィンランドVexlum社との戦略的パートナーシップ提携を行うなど、量子分野での事業活動も進展しています。

当社は今後も、こうした新規分野の進捗を積極的に皆様へ発信してまいります。

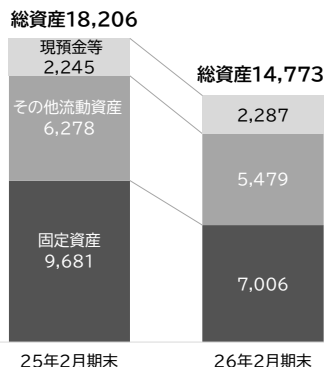
## 連結貸借対照表

OXIDE

- 株式売却により、Raicol社の資産負債が連結BSから除外され、総資産が前期比34億3,300万円減少いたしました。
- 2026年2月期の営業キャッシュフローを原資に有利子負債を前期比28億2,700万円圧縮し、財務体質の改善を進めました。
- 主要な財務指標の有利子負債の重さを示すNet Debt/EBITDAは7.1倍から3.7倍と前期比約半減となっております。

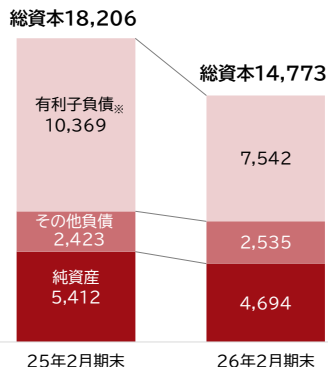
## 資産

(単位:百万円)



## 負債・純資産

(単位:百万円)



## 主要財務指標2期比較

(単位:百万円、倍、%)

項目	25年2月期	26年2月期	前期比
総資産	18,206	14,773	▲ 3,433
Net Debt (有利子負債-現金)	8,124	5,255	▲ 2,869
Net Debt/ EBITDA	7.1倍	3.7倍	▲ 3.4倍
負債資本倍率 (Debt Equity Ratio)	1.9倍	1.6倍	▲ 0.3倍
自己資本比率 (Equity Ratio)	29.7%	31.8%	+ 2.1%

Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved. ※ 有利子負債:社債+借入金(リース債務除く)

13

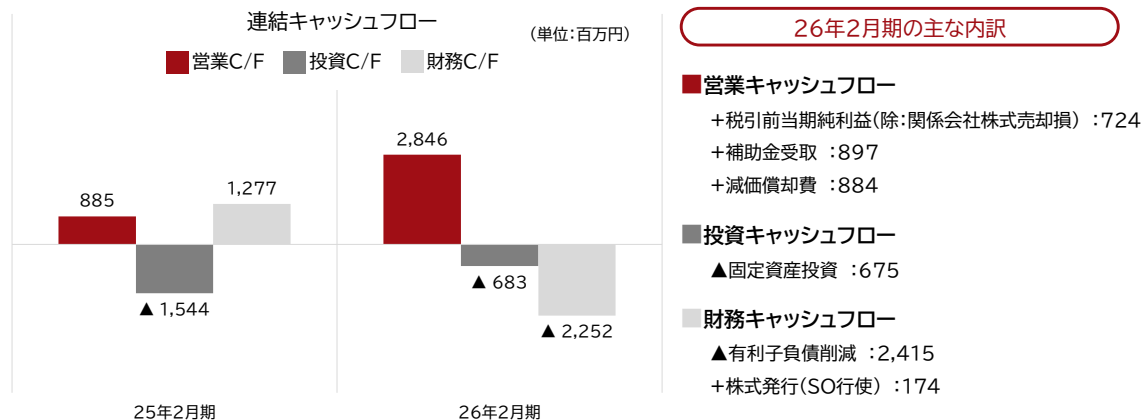
株式売却により、Raicol社の資産負債が連結BSから除外され、総資産が前期比34億3,300万円減少いたしました。

一方で、2026年2月期の営業キャッシュフローを原資に、有利子負債を前期比28億2,700万円削減しました。

主要な財務指標の有利子負債の重さを示すNet Debt/EBITDAは7.1倍から3.7倍と大幅に改善し、財務体質が強化されています。

## 連結キャッシュフロー

- 収益性の改善により営業キャッシュフローが大幅に増加し、キャッシュ創出力が強化されました。
- 営業キャッシュフローを原資として有利子負債を圧縮し、財務体質の改善を進めました。



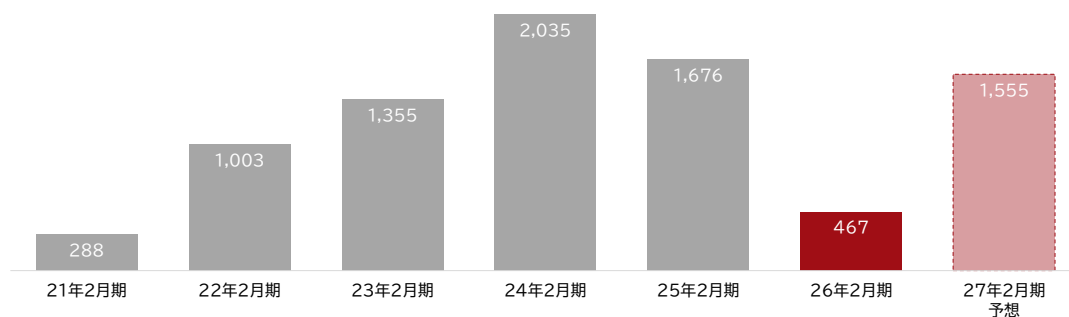
先ほどご説明した財務体質の改善を、キャッシュフローの観点からもご説明します。  
 収益性の改善により営業キャッシュフローが大幅に増加し、キャッシュ創出力が強化されました。  
 営業キャッシュフローを原資として有利子負債を圧縮し、財務体質の改善を進めました。

## 【設備投資費】

- 設備投資費を大幅に圧縮し、4億6,700万円となりました。
- 将来の成長を見込んだ過年度の大型投資が奏功し、既存事業における増収増益に寄与しました。
- 2027年2月期は、量子・データセンター・光電融合・微細加工など新たな成長分野に向けた設備投資を計画しています。

設備投資費

(単位:百万円)



次に、設備投資費についてご説明します。

設備投資費は4億6,700万円と、大幅に圧縮しました。

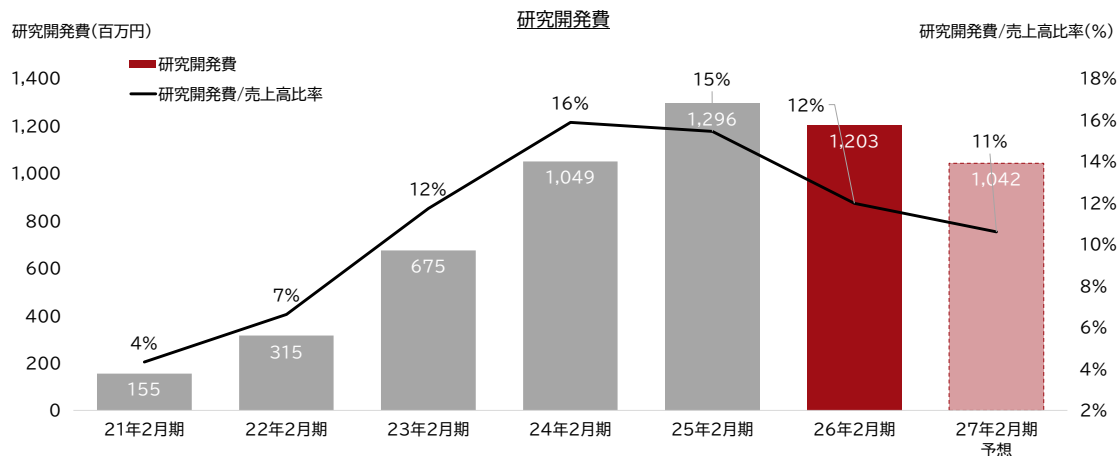
将来の成長を見込んだ過年度の大型投資が奏功し、既存事業における増収増益に寄与しており、投資効果が顕在化しております。

2027年2月期は、量子・データセンター・光電融合・微細加工など、新たな成長分野に向けた投資を計画しています。

## 【研究開発費】

OXIDE

- 将来の成長が期待される半導体・量子・データセンター・パワー半導体分野に注力し、研究開発費は12億円超となりました。
- 成長に求められる研究開発投資と、収益性向上のバランスを重視しております。



Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

16

研究開発費についてご説明します。

研究開発費は12億円超となりました。

半導体・量子・データセンター・パワー半導体など、将来の成長が期待される分野に重点的に投資しています。

これらは、当社の技術が活かせる領域であり、今後の事業拡大に向けて重要な分野です。

一方で、研究開発費が収益性を圧迫しないよう、成長に必要な投資と収益性向上のバランスにも配慮しています。こうしたバランスを保ちながら、将来の成長に向けた技術基盤の強化を進めています。

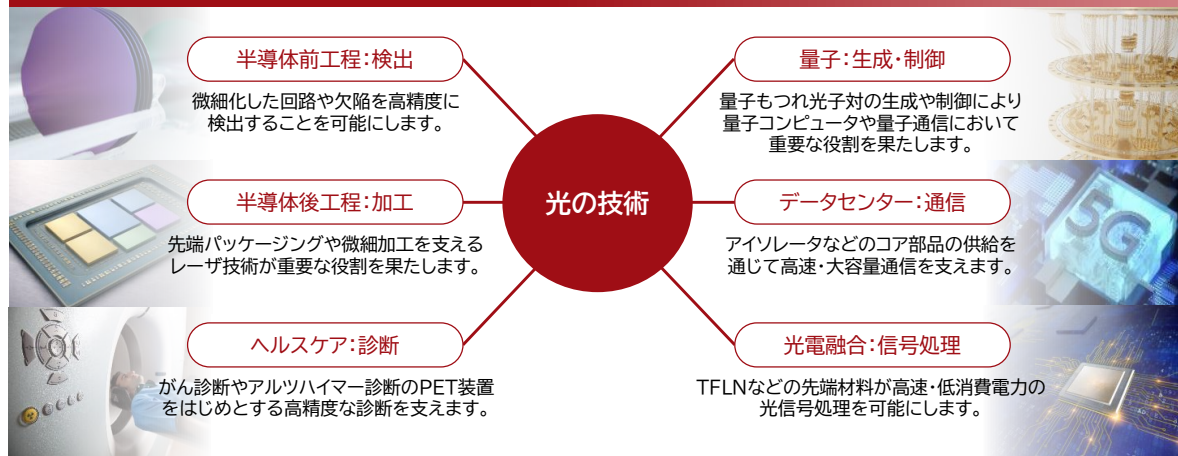
## 2027年2月期通期業績予想および中期経営目標

ここからは、2027年2月期の通期業績予想と、中期経営目標についてご説明いたします。  
当社は、既存事業の収益性改善に加え、成長分野への投資を継続しながら、持続的な成長を実現することを目指しています。当社がどのような未来像を描き、どの領域で成長を加速させていくのかをお伝えします。

## OXIDE ビジョン

### 豊かな未来を光の技術で実現

OXIDEは、光の時代と言われる21世紀において社会・産業インフラを支えます。



Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

18

20世紀が「電子の時代」であったとすれば、21世紀は「光の時代」と言われています。

光の技術は、半導体前工程の検査、半導体後工程の加工、ヘルスケア領域の診断、量子コンピュータや量子通信の量子もつれ光子対の生成と制御、データセンターの高速通信、光電融合による次世代信号処理といった、社会・産業インフラのあらゆる領域で不可欠な存在となっています。

当社は創業以来、光の技術を磨き続けてきました。その結果、これら多様な産業領域に対して、単結晶・レーザ・光デバイスといったコア技術を提供できる独自のポジションを確立しています。

創業以来培ってきたコア技術が、先端領域ビジネスへの新たな好機を拓きます

OXIDE



当社の強みは、創業以来一貫して磨き続けてきた単結晶育成と波長変換のコア技術にあります。これらの技術は、単なる材料技術にとどまらず、半導体前工程の検査用レーザ、量子コンピュータ向け光源、データセンター向けアイソレータ部材、光電融合向け先端材料 など、先端領域の製品群へと広く展開されています。

つまり、当社のコア技術は、既存事業の競争力を支えるだけでなく、先端領域ビジネスの新たな好機を切り拓く“技術的レバレッジ”として機能しているという点が強みです。

## 事業ポートフォリオ

OXIDE

- 半導体・ヘルスケアの既存分野がキャッシュ創出を担い、安定的な収益基盤を形成しています。
- 創出したキャッシュを、成長分野向け設備投資と、新規分野向け研究開発投資に振り向け、成長を加速しています。

	既存分野 (安定的な収益基盤)	成長分野 (主な設備投資対象)	新規分野 (主な研究開発投資対象)	単結晶・ デバイス レーザー
半導体	<ul style="list-style-type: none"> <li>深紫外単結晶</li> <li>ウエハ検査向け深紫外レーザー 現行モデル 266nm ~3W</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マスク検査向け深紫外レーザー 193nm</li> <li>ウエハ検査向け深紫外レーザー 高出力モデル 266nm 8W~</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回路パターンを高速・非破壊で 可視化するPEEM向け深紫外レーザー</li> <li>半導体後工程微細加工向け 高パルス・ピコ秒深紫外レーザー</li> </ul>	
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん診断PET向け シンチレータ単結晶</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代がん診断PET向け シンチレータ単結晶</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルツハイマー診断 頭部PET向け シンチレータ単結晶</li> </ul>	
新領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>多種多様な産業用単結晶</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データセンター アイソレータ向けファラデー回転子</li> <li>量子向け波長変換素子 量子もつれ光子対光源モジュール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>光電融合向けTFLN</li> <li>パワー半導体向けSiC</li> <li>量子コンピュータ向けレーザー</li> </ul>	

続いて、当社の事業ポートフォリオについてご説明します。

まず、半導体・ヘルスケアの既存分野は、安定的な収益基盤としてキャッシュ創出を担っています。

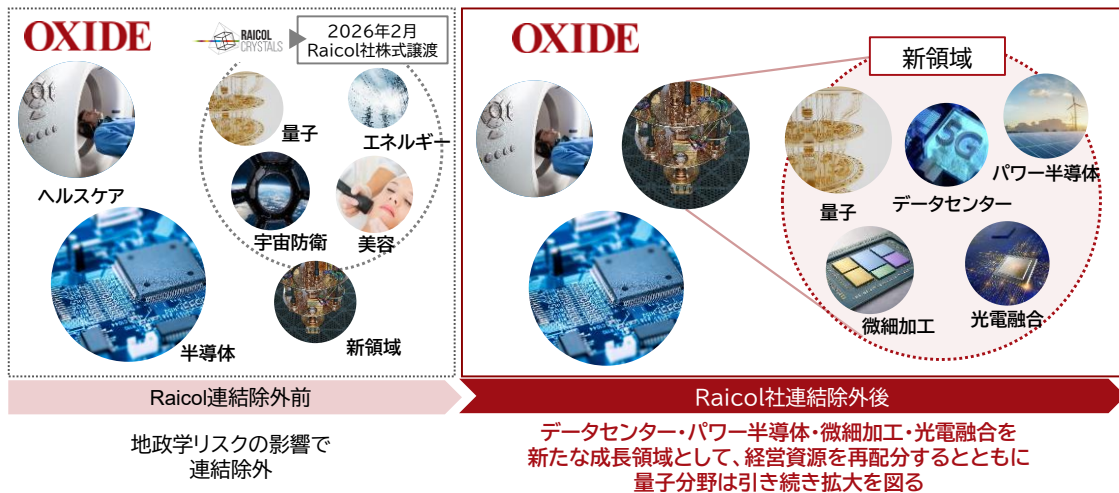
これらの事業がしっかりと利益を生み出すことで、当社は積極的な成長投資を行うことが可能になります。

創出したキャッシュは、データセンター向けファラデー回転子、193nmレーザーなど成長分野向けの設備投資や、量子光源、光電融合材料、パワー半導体SiCなど新規分野向けの研究開発投資へと再投資し、事業全体の成長を加速しています。この「既存 → 成長 → 新規」への資源循環こそが、当社の持続的成長モデルの核となっています。

## 事業ポートフォリオ

OXIDE

- 市場環境の変化を捉えながら、事業ポートフォリオを機動的に組み替え、経営資源を成長領域へ果敢に再配分しています。
- Raicol社連結除外前後での事業ポートフォリオ組み換えが、当社の方針を体現しています。



当社は、市場環境の変化を捉えながら、事業ポートフォリオを機動的に組み替えています。

2026年2月期に実施した Raicol社の連結除外は、その象徴的な取り組みです。

地政学リスクの高まりにより、Raicol社の収益性が不安定化したことを受け、当社は経営資源をより成長性の高い領域へ再配分する判断を行いました。

連結除外後は、データセンター・パワー半導体・微細加工・光電融合といった新たな成長領域に注力しつつ、量子分野についても引き続き拡大を図っています。

このように、当社は外部環境の変化を的確に捉えながら、事業ポートフォリオを柔軟に再構築しています。そして、長期的な成長に向けて最適な資源配分を実現するという経営方針のもと、着実に取り組みを進めています。

## 2027年2月期 業績予想(連結)

OXIDE

- 売上高は、前期比でほぼ横ばいの98億2,900万円の見込みです。  
オキサイド単体の売上高では、前期約86億円から今期約98億円となり、前期比約15%の増収見込みです。
- 営業利益は、過去最高の9億3,300万円となる見込みです。
- 営業利益率は、連結除外および既存事業での収益性向上が寄与し、前期の5.4%から9.5%まで上昇する見込みです。

(単位:百万円、%)

項目	FY27/2月期					FY26/2月期 通期	増減
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期		
売上高	2,251	2,409	2,369	2,800	9,829	10,040	▲ 211
半導体	1,282	1,639	1,725	1,756	6,402	5,002	+ 1,400
ヘルスケア	428	410	487	526	1,851	1,997	▲ 146
新領域	541	359	157	518	1,575	3,040	▲ 1,465
営業利益	181	78	247	427	933	542	+ 391
営業利益率	8.0%	3.2%	10.4%	15.3%	9.5%	5.4%	+ 4.1%
研究開発費	299	241	266	236	1,042	1,203	▲ 160
EBITDA※1	352	262	439	628	1,681	1,427	+ 252
EBITDAマージン※2	15.6%	10.9%	18.5%	22.4%	17.1%	14.2%	+ 2.9%

Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved. ※1 営業利益に償却費を加えた数値 ※2 EBITDA÷売上高

22

2027年2月期の連結業績予想をご説明します。

売上高は、98億2,900万円と、前期比でほぼ横ばいの見込みです。

オキサイド単体では、売上高が前期約86億円から今期約98億円と、約15%の増収を見込んでいます。

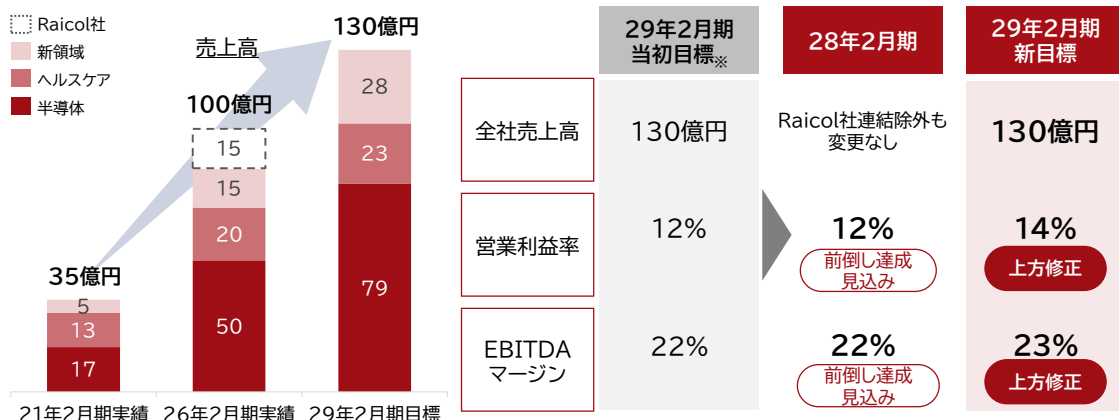
営業利益は、9億3,300万円と、過去最高になる見込みです。

営業利益率は、9.5%と、前期の5.4%から大幅に改善する見込みです。

## 中期経営目標

OXIDE

- Raicol社株式譲渡による売上高減少は、半導体および新領域の成長で補完し、2029年2月期の売上目標130億円を維持します。
- 営業利益率の当初目標は12%ですが、1年前倒して2028年2月期に達成予定です。このため、2029年2月期の目標値を上方修正し、14%といたします。EBITDAマージンも同様に上方修正し、23%といたします。



Copyright: 2026 OXIDE Corporation. All Rights Reserved. ※ 2025年4月30日開示「事業計画及び成長可能性に関する事項」における目標値です

最後に、中期経営目標についてご説明します。

Raicol社の連結除外による売上高減少は、半導体および新領域の成長で十分に補完できる見通しです。

2029年2月期の売上目標は、130億円を維持します。

営業利益率は、当初目標12%を1年前倒し、2028年2月期に達成見込みです。

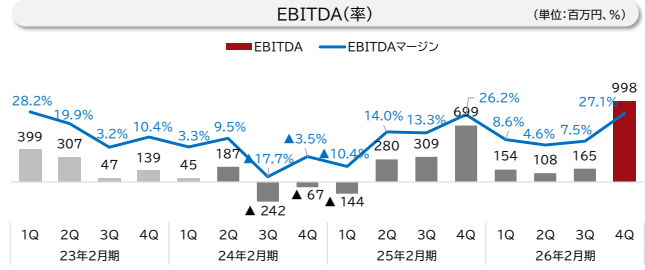
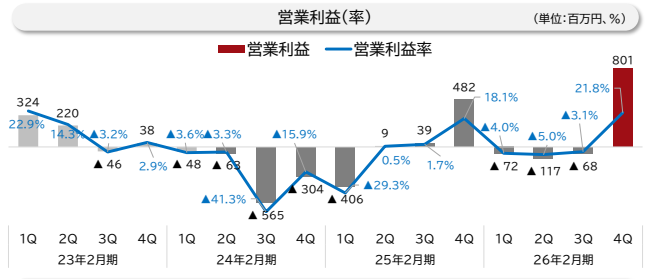
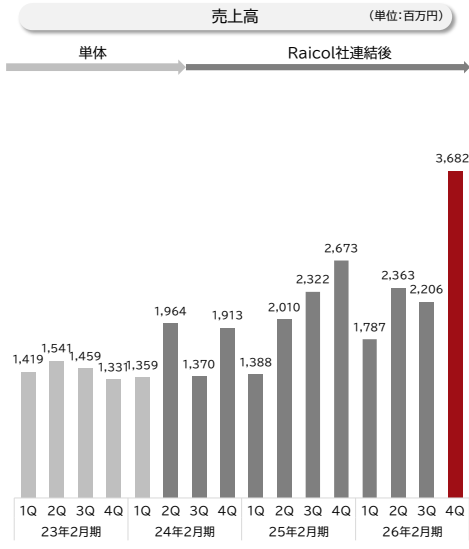
このため、2029年2月期の営業利益率目標値を14%と上方修正いたします。

EBITDAマージンの目標も23%と、同様に上方修正いたします。

# Appendix

# 財務トレンド

OXIDE



※2024年2月期第4四半期にて、Raicol社の子会社化に伴うPPAの確定により、取得原価の配分を見直しました。  
このため、2024年2月期第2四半期及び第3四半期の数値は、遡及後のものとなっております。

# OXIDE

## ディスクレイマー

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の想定及び所信に基づく見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。

実際の業績に影響を与えるリスクや経済動向、業界需要などの不確定要因を含んでいます。

当社の見込みと実際の業績は異なる場合があります。ご了承ください。

本資料に記載された金額は表示単位未満を切り捨て処理、比率は表示単位未満を四捨五入処理しているため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。

2024年2月期第4四半期にて、Raicol社の子会社化に伴うPPAの確定により、取得原価の配分を見直しました。このため、2024年2月期第2四半期及び第3四半期の数値は、遡及後のものとなっております。

豊かな未来を光の技術で実現する

<https://www.opt-oxide.com>